

令和 6 年度第 2 回宮崎県循環器病対策推進協議会 会議概要

1 日時

令和 7 年 2 月 6 日（木）午後 6 時 30 分から午後 7 時 30 分まで

2 場所

宮崎県防災庁舎 5 階 防 53 号室

3 出席者

・ 委員

大田元委員、沖田典子委員、落合秀信委員、海北幸一委員、児島慎也委員、柴田剛徳委員、玉置昇委員、永野秀子委員、花田智委員、林正太郎委員、星原一弘委員、脇田浩之委員

（ 5 0 音順）

・ 関係各課

医療政策課、国民健康保険課、長寿介護課 医療・介護連携推進室、障がい福祉課、薬務感染症対策課、雇用労働政策課、スポーツ振興課担当職員

・ 事務局

健康増進課

4 議事

冒頭、会長選出が行われ、委員の互選により柴田委員が会長に選出された
宮崎県の循環器病対策の推進について

5 議事について委員からの主な意見

○現行計画の評価について

委員）出典で変わってくるような気もします。特に割合を出しているものは母集団が年々変わっているので、要するに、母集団を一定にできるかどうかですね。特に健診業務など、なかなか一概には言えないというのが感想。

○普及啓発について

委員）普及活動につきまして、県民公開講座は非常に有意義だと思うのですが、正直、もうちょっと参加人数が増えるはずです。脳卒中部門は宮崎県内を毎年、延岡地区や日向地区など場所を変えながら、市民公開講座を行ってきまして、一番多いところが 400 人を超えたり、そういう自治体もございましたので、宣伝活動が非常に重要かと思います。来年度は早めに日程を決めていただいて、宣伝をしっかりと行っていたらと思います。

委員）おそらくテーマをどういうテーマにするかで参加者の年齢層が変わってくると思います。栄養士の方の話は我々自身も非常に参考になった。実際、どういうことをやっていったら市民の方が振り向いてくれるか、自分の日常に少し即したテーマを設定してやっていくといいかなと思います。BLS みたいなやつでもいいのかと実際

思ったりしていました。バタッと倒れている人がいたときにどういう処置をしていたらいいのか、基本的なところを、実際にデモをやりながらするといいと思いました。熊本では県立劇場とかで 800 人参集してやっていました。その時、BLS もやりましたが、倒れている方を目の前にしてどういう対応をとるか、皆さん興味深く見てらっしゃったという記憶がありますし、実技をやるのは非常にいいかと思います。そういった意味では、リハビリとか県民の方がいろんな興味を持つような、そういう内容の方がいいと思いました。

委員) 確か連休で天気がよかったのではないかと記憶しています。もし良かったら、振り返りみたいな形で、オンラインもいいですけど、期間限定でオンデマンドとかそういうのを入れたら、もっと広まると思います。

○循環器病人材育成事業について

委員) 今年 5 月 10 日に心不全療養指導士、心リハ指導士を今から受けたい、受けようと思っている医療従事者向けのセミナーを企画しております。今年資格を取った理学療法士とか薬剤師さん、栄養士さんにお声掛けをして、どういう目的で取ったとか、日頃忙しい中でどういう時間を割いて勉強したとか、身近な話をしてもらえばいいかなと思っています。専門病院をみるとメンターがいて学びやすいですが、1 人職場だとどのように学んでいっていいかわからないという方の声も聞きますので、そういったところの集まりが作ればいいかなと考えておりますのでまたご報告したいと思います。

委員) 実際に当院では、自分たち経費で自分たちの力で受けて、また継続も単位を取らないといけないので結構大変です。少しでも県の方で補助してくれるという動きはとてもいいなと思っております。ただせっかくですけど、これは半分を病院が出した形になると、果たしてこの部分だけを、心不全療養指導士と心臓リハビリテーション指導士だけのためにお金を出す病院があるのか。特定看護師とか、いろんな部門の方、これだけじゃない検査技師さんたちの資格とかいっぱいあります。これらを全部出すのは非常に微妙です。大抵却下されてしまいます。こういうのを受けられるような体制をとって欲しいのですが、公的なお金を使うので、しっかりとしたところにしか送れないというのもわかります。

委員) やはり病院が負担をするので、循環器領域だけ病院がお金を出すというのは平等性という意味で、できかねるというところで申請できないという病院があります。病院でなく個人単位でできないのかと話をさせていただきましたがそれは難しいというご回答をいただきました。個人単位だったら申請書をしっかり出すのではないかと思います。うまく流れるシステムがあると、多分この数はかなり増えてくると思います。

○宮崎県脳卒中・心臓病等総合支援センターについて

委員) 啓発活動は、県民公開講座とかあるのですが、先ほども話がありましたように、やはり 150 名ぐらいのこじんまりとしたものであるので、県民への周知という意味では、まだまだだなと思います。区域ごとに分けてやるというのも手ではありますから、宮崎県は面積としては非常に広いので、市内だけではなくて他の地域、医療圏ごとにやるというのも 1 つの手とっております。脳卒中手帳と心不全手帳は宮崎県のオリジナルのものとして、県全体でやっていけるようなシステムをやりようと思っています。心不全の方は、心不全対策推進委員会を立ち上げておりまして、これも医師だけではなく、看護師さんとか薬剤師さん、栄養士さん、あとリハの方も含めた多職種で構成されております。実務されている若い方が中心となって立ち上がっている委員会、そしてこれも脳卒中・心臓病等総合支援センターの中に位置付けて、そして県全体の心不全診療を、均一化してやっていこうと考えております。課題は 2 年目以降の資金です。これが非常に問題になっています。1 年目は 1800 万あるのですが、厚労省は 2 年目以降、基本的にこれに関するお金は出さない、自前でやってくれということになります。特に人件費の捻出が非常に問題で、他の都道府県も 2 年目以降どうしようと言うのが一番の問題になっております。私の希望としては、県の方で少し協力をしてもらえるとありがたいなと切に願う次第でございます。

委員) 脳卒中部門につきましては、県内の 1 次脳卒中センター (PSC 施設) と大学病院を中心にネットワークを作成中です。このネットワークというのは医師だけでなく、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、あるいは管理栄養士や医療相談員といった、多職種に跨るネットワークを目指して構成しております。具体的に、日本脳卒中医療ケア従事者連合 (SCPA Japan) という団体が、2021 年 12 月に設立され、その宮崎県支部を 2024 年に設立しました。脳卒中の多職種連携のコアとなるメンバーを中心に、キックオフミーティングを行いまして、そこから少しずつ多職種連携の輪を広げていこうとしております。あと脳卒中手帳については宮崎大学医学部附属病院内の脳卒中多職種連携チームで作成いたしました。将来的には宮崎県脳卒中・心臓病等総合支援センターのホームページに PDF ファイルとして載せて、自由にダウンロードしていただこうかと考えております。

○今後のスケジュールについて

委員) 県庁の方にお聞きしたいのですが、医療計画と健康増進計画の一体的策定をすることがどうかという話、今後はどうされる予定ですか。

県) 医療計画は、循環器病対策推進計画の上位計画のような位置付けになっています。より詳しく施策をどうやっていくかというものを入れ込んでいるのが皆様に策定で協力いただいている循環器病対策推進計画となっております。都道府県によっては、医療計画の中に入っている 5 疾病 6 事業の中に心疾患と脳卒中というものがあ

りますので、ここに入れ込んでいるものをもって、循環器病の計画だと言っている都道府県もございます。これについては、委員から循環器病の計画は循環器病計画として一本、医療計画とは別に作るべきだという意見をいただいたことがございます。それを踏まえて、これだけ熱心にご議論いただいている協議会が持っている計画ですので、今のところ県としては、医療計画に統合する考えは持っておりません。